

2019年11月  
1159号

# 万葉

Manyoh

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5  
(一冊の会研究室)

## FAWA に向けて本格スタート

～参加から運営へ。11月櫻華塾～

秋も深まり国会議事堂周辺の木々が色づき始めた11月24日、尾崎行雄記念財団応接室で11月度櫻華塾を行いました。出産のためお休みをしている城杉研究員が、昨日男の子を産んだという嬉しいニュースでスタート！会長の元で学びたいという意欲にあふれて集まっている一同。この明るいニュースでより活気付き、パッと明るい開会となりました。

### FAWA(アジア太平洋女性連盟)日本総会に向けて本格スタート

東京で開催予定の第24回FAWA総会に向け、11月15日に各国の代表者との第1回目の会議、16日に第1回実行委員会を開催いたしました。本日欠席の三坂FAWA事務局長に代わり、小山副会長が15日の会議の様子を報告しました。離れているフィリピンや台湾の代表とはスカイプを使用して議論しましたが、なんとサラ・メイ・ウーさん、クリスタル古賀さん、アンジェラさんは来日し参加してくださいました！運営していく立場となったことの自覚が深まる大変実りある会議だったとのことですが、ひとつ重要な決断をしました。当初2021年3月中旬での開催を考えておりましたが、海外のメンバーの中には同時期に開催される国連の会議に出席をしなければならない方も多く、2021年3月26日～29日の開催とすることが正式に決定いたしました。

次に、16日の第1回実行委員会に参加したメンバーから報告がありました。サラ・メイ・ウーさん、クリスタル古賀さんは前日に続き参加して様々なアドバイスをくださり、その細かい内容は平間研究員が報告しました。箱根参事は、来年の年賀状は葉書ではなくお手紙を出してFAWAへの参加又は協力をしてくださるよう連絡を取りたいと述べました。米山さんと山内研究員の2人の男性が成功に向けて努力する決意を発表し、最後に新井事務局次長が「一人一人が主体である自覚をもたないと大きな行事は出来ない、パートナーとしての男性の理解があってこそ女性が社会にはばたいていけます、共に頑張っていきましょう」と締めました。

次の実行委員会はテーマに沿ってもう少し話しを詰めていきたいと思います。また今回の会議にはIEO国際交流団体から2人参加して頂きました。どちらの会の出身ということなく、FAWAのメンバーとして心を一にワンチームになりましょう。年度末の時期となりますが、成功に向けてマラソンのように持久力を持って進んでいきましょう、と小山副会長が結ばれました。

第24回FAWA日本総会(東京)	2021年3月26日～29日
テーマ：女性と世界平和	サブテーマ：人生100年時代の女性の活躍

### SDGs 推薦本『なかよしの水』について(新井事務局次長から)

一冊の会では55周年を記念して、SDGsについて子どもにも分かるように易しく書かれているタンザニアの絵本『なかよしの水』を親子一体の輪読本として、世界に友好の絆を広げる活動を展開することは、前回の櫻華塾で会長からお話がありました。(万葉1158号参照) SDGsについて、一冊の会では5年前から勉強を始めました。どんな人であっても幸せになれる、どんな国に生まれても1人の人間として1人も残さず幸せになる。

SDGs の考えの根本を大人だけが理解するのではなく、小さな子どものうちから学ぶことによって、国際人として立派な大人になると思います。輪読本の表紙を開いたところに名前を記入できる紙を貼ってありますので、是非多くの方に読んでいただき、頂戴したお名前を新井にお知らせください。国連に提出するため締め切りを設けます。第1回は12月23日、第2回1月31日、第3回2月28日です。国連の歩みと共に歩いてきた一冊の会です。この素晴らしい本を広めていきましょう。

### 国連ウイメン日本協会さくらの募金活動について（北川さんから）

皆様の家にはすでに募金箱があるのではないかと思います、一冊の会は国連ウイメン日本協会の正会員団体です。また我々は協力団体の国連ウイメン日本協会さくらとしての顔も持っています。UN WOMEN の活動は女性問題の地位向上、子どもへの支援、暴力撤廃等、SDGs の第5目標の活動です、皆さんの真心でご協力いただきたいと思います。12月に小山副会長まで募金箱の中身をお渡しいただきますようお願いいたします。

### 大槻会長のお話

FAWA の補助金の獲得のために都庁に日参しています。都では前例の無い事だとのことですが、臨時の担当を作って下さり、そこで一冊の会について説明をする中で、ゴルバチョフ元大統領に会った話をしたら大変に驚かれました。1989年、日本文化友好使節団の一員としてソ連に行きました。日本人の有識者が47人参加していて、私は一番下っ端だった。お金を渡されて私はお土産にしようとして使わなかった—国外に持ち出せないとは知らずに。そんな姿が見とがめられたのか、まだ大統領ではなかったゴルバチョフ氏に呼ばれて、どこに行きたいか聞かれたので、捕虜で亡くなった日本人のお墓と答えた。実際行ってみると、ソ連人のお墓は立派で、その中にコンクリートみたいな塊が積み上がっているのが日本人のお墓なのですぐ分かる。そこで拝んでいるところが新聞にも載りました。日本人で一番早くに捕虜のお墓に行ったのは私だと思います。

先ほど新井さんから話をしたタンザニアの絵本『なかよしの水』の啓蒙活動ですが、この本は私が本屋で見つけました。55年前の原点に戻って絵本を輪読します。また、今上天皇は生涯を通して水について研究されています。令和元年の輪読本としても相応しいものです。

孫の由美が、最近一冊の会を継ぐ決意ができたのは、石田理事長が話をする姿が素晴らしかったからだとのことです。理事長のお陰です。国連の女性の人権問題は女性のメンバーだけで活動していましたが、これからは男性も一緒に活動する時代になりました。私は前々から、女性問題は女性だけで考えてはいけなく、共に考えなければいけないと言ってきました。2021年のFAWAは全員が手をつなぎ成功させましょう。



### 石田理事長から

FAWA が参加から運営になります。FAWA は女性が中心に築いてきた会ですし、今もそうです。先ほど米山さんと山内さんがFAWAの成功に向けて頑張ると決意表明されました。これからは男性も積極的に参加しなくてはなりません。◆『なかよしの水』の輪読の話がありましたが、親子の読み聞かせは一冊の会の原点となる活動です。小さいときから世界的な視野を養うことは大切です。毎年11月に三重県伊勢市にある尾崎罌堂記念館にて罌堂誕生祭が開催されます。小学生が集まり尾崎の本を読んで平和や民主主義を学んでいる。彼らなりの視点には鋭いものがある。後継者を育てることは大事なことです、無理をして若い人を連れてくることはありません。一冊の会の活動をしていけば自然と手伝いたいという人が現れます。相馬雪香も尾崎行雄の後ろ姿を見て育ったから大きな社会貢献をすることができた。尾崎は74歳で「人生の本舞台は常に将来に在り」と言った。そこから20年、晩年の尾崎は真骨頂を見せていく。今は寿命が延びていますし、年齢ではありません、皆で手をつないでやっていくのが一冊の会です。◆今日は大槻会長にゴルバチョフ元大統領との出会いの話をして頂きましたが、このような大槻会長自身の歴史をもっと聞かせて頂きたい。たとえ同じ話であっても、原点となるお話は何回聞いてもよい、繰り返し聞く必要があるのです。会長、どんどん語ってください。我々も頑張りましょう。



文責：平間研究員、赤田研究員